

Telematics ECU を WiFi 経由でリモートデバッグするための CAN FD アナライザ

[Case Studies](#) / Marelli

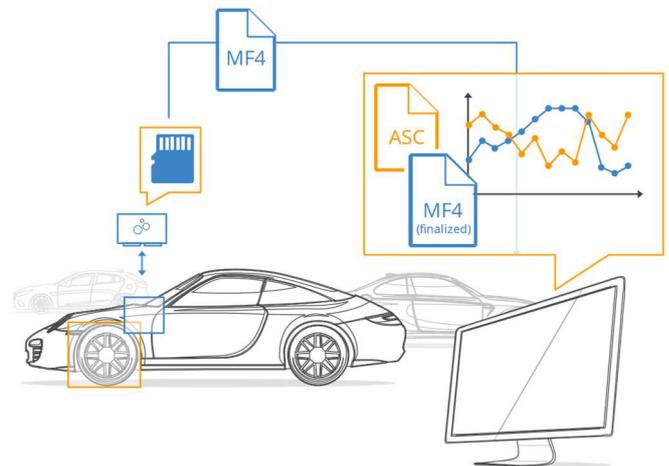


[Marelli](#)

About: Magneti Marelli は、自動車分野における世界有数の独立系サプライヤーであり、170 の施設に約 6 万人の従業員を擁し、2019 年の売上高は 136 億ユーロに達しています。

解決すべき課題は？

Telematics ECU がさまざまな車両に搭載されている場合、CAN FD データのログを取ったり、再生したりする必要があります。デバッグプロセスの一環として、CANoe/CANalyzer などの Vector ソフトウェアや VN5610 /VN1630/ VN1640 などハードウェアを使用して、CAN FD ログファイルのトレースを再生できるようにする必要があります。



どのように課題を解決した？

CANedge2 を使用することで、車両内や ECU から CAN FD データを記録することができます。データは、SD カードまたは自動で WiFi データ転送を介して収集されます。データ処理には、CSS 社の無償ソフト MF4 Converter を使用して CANedge2 のログファイルを Vector ASC に変換し、その後 Vector ツールでデータを処理して事後分析を行います。

メリットは？

CANedge2 を使うことで、Telematics ECU の CAN FD 関連の問題をデバッグすることができるので、より安価な解決策をすぐに見つけることができます。

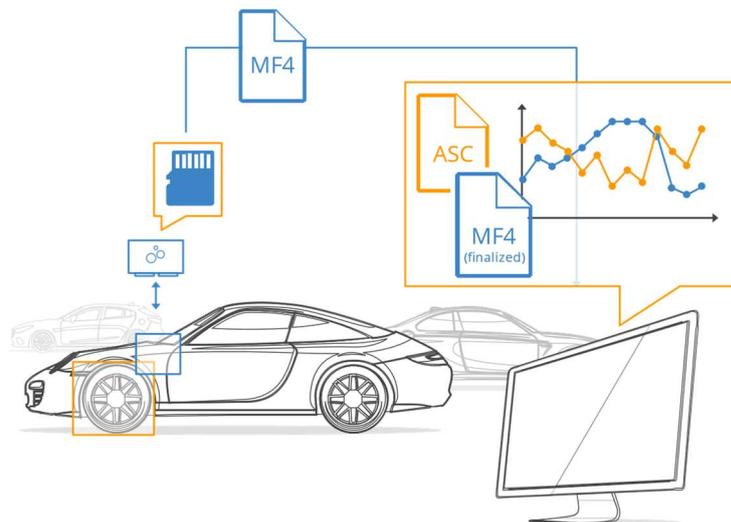
“ CANedge2 は、超低価格で素晴らしいデバイスであり、
我々のニーズに合致しています！ ”

なぜ CANedge を選んだのですか？

まず第一に、CANedge2 はとても小さく、どこにでもフィットします。また、2 x LIN/CAN (CAN FD を含む) をサポートしているので、記録するログファイルの種類を柔軟に選択することができます。また、単純にデータを SD カードに記録するだけでなく、WiFi アクセスポイントを介してセルフホストのサーバーにログファイルを自動送信するオプションもサポートしているので、柔軟に対応できるのも良い点でした。CANedge2 の設定はとても簡単で、エディタの GUI も充実していますし、ソフトウェアツールはすべてオープンソースです (github で公開されています)。同じ機能や性能を持ちながら、多くのデバイスと比較しても価格が非常に安価です。 *Paolo Denetto, Systems Specialist, Magnetti Marelli*

CSS 社のコメント

CANedge は相互運用性のために設計されており、お気に入りのツールを使ってデバイスやデータを扱うことができます。ここでは、Marelli は CANedge ハードウェアを使用していますが、CAN バスのログファイルを CANoe や CANalyzer などの好みの Vector ツールでロードしています。具体的には、Marelli は MF4 ファイルを Vector ASC に変換します。現在では、MF4 (同様のコンバータを使用) ファイルで単純に完結することも可能で、その結果得られた MF4 ファイルを Vector ツールで直接読み込むことができます (Vector SP2 の場合)。詳しくは、MF4 Converter の紹介をご覧ください。



国内問合せ：



シェルパ株式会社

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-4 京浜建物第2ビル

TEL: 045-475-2701

e-mail: automtv_info@sherpa-tech.jp

<https://www.sherpa-tech.jp>